

「強い地域経済の構築に向けたシンポジウム」が開催されました

11月14日（月）、酒田市の東北公益文科大学公益ホールで「強い地域経済の構築に向けたシンポジウム～酒田港を生かした製造業の強化～」が開催されました。

このシンポジウムは、今年度総務省が酒田市で実施した「地域における基盤産業強化のための調査」の報告にあわせ、総務省と酒田市が共催で開催したものです。

初めに、太田直樹総務大臣補佐官が「地域で未来を創る～地域産業の見える化と強化～」と題した基調講演を行い、基盤産業の強化が地域の雇用と賃金を増やすことや、地域産業の「立地の劣化」を防止するために「立地の必然性」を増す必要があることを指摘しました。続いて、当事務所の上原所長が「地域経済を支える酒田港」と題した特別講演を行い、酒田港の最近の話題や取り組みについて紹介しました。

その後、吉原元子山形大学人文学部法経政策学科准教授が「地域産業のイノベーションと企業間連携」について、連携を成功させるには、まず目標をもった「場」を創出することだと説明し、大野幸雄株式会社日本アプライドリサーチ研究所代表取締役の調査概要報告では、「酒田港の特徴は、輸出入貨物の取扱が主力で、国内移出入の取扱量が少ない。」と指摘し、国内他地域への移出機会の拡大を課題として挙げました。

パネルディスカッションでは、谷本均花王株式会社酒田工場前工場長から、「庄内はレベルが高い人材が多く、港や工場だけでなく、人も庄内の特色である。」との意見があり、永田則男株式会社永田プロダクト代表取締役からは、酒田港の利用について「私も初めはコンテナ船の利用方法が分からず、色々聞きながらやったが、コツをつかめばそんなに難しいことではなかった。一人で出荷するのが難しいのであれば、共同出荷も面白い。そうすれば、庄内の食材や商品を海外でもっと多く流通させることができる。」との提案がありました。



主催者あいさつ
(矢口明子酒田市副市長)



太田直樹総務大臣補佐官



上原所長



吉原元子山形大学准教授



パネルディスカッション

